

5月1日 部長会議資料

議 題 ・ 課 題 等 提 案

市 長 公 室

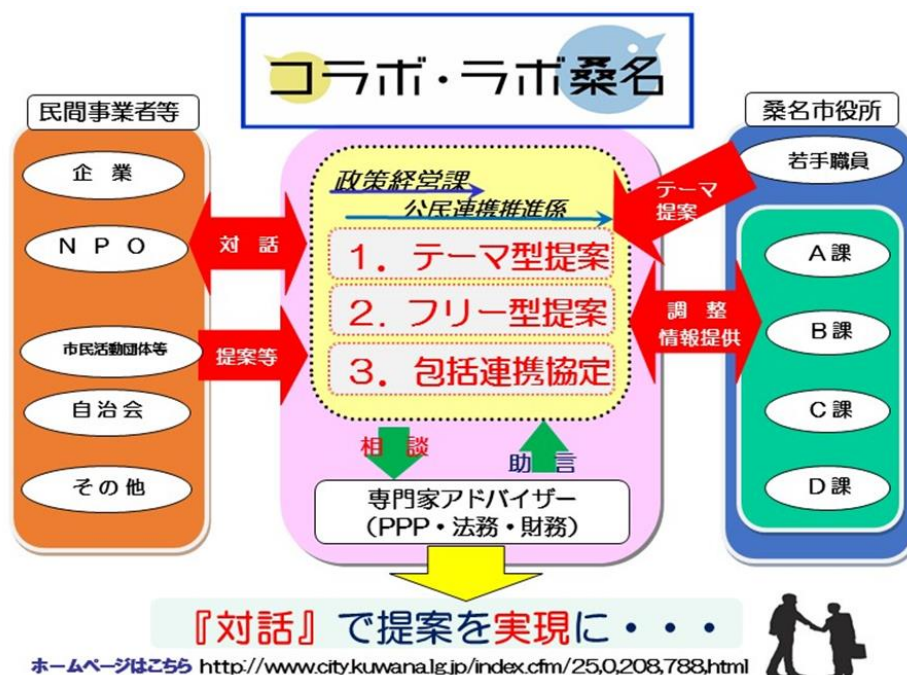
目 次	頁
I. 公民連携の推進について	1
II. 桑名市男女共同参画基本計画について	3
III. 水辺空間を活用した社会実験について	8

I. 公民連携の推進について

1 現状

これまで、公民連携公共サービス提案制度、公民連携広告事業制度、ネーミングライツ・パートナーシップ提案制度を実施することにより、民間事業者から数多くの提案をいただき、歳入確保、経費削減につなげることができました。

また、より幅広く提案を募るため、平成28年10月に公民連携ワンストップ対話窓口「コラボ・ラボ桑名」を設置しました。



1. テーマ型提案

特定の行政課題をコラボ・ラボ桑名で解決したい場合に不定期で募集します。内容によっては、事前に民間事業者等の皆様から広くご意見・ご提案をいただく「対話」を通して市場を把握する、サウンディング調査を実施することもあります。

2. フリー型提案

民間事業者から歳出削減・歳入確保・市民サービスの向上にかかる自由な提案をいただく制度です。

3. 包括連携協定

民間事業者と市の双方の強みを生かして福祉・環境・防災・まちづくりなどの課題解決に対応するための大枠を定める協定を締結します。

提案の実現のためには、提案者の内容と行政の意向を十分調整しながら、提案者と繰り返し対話を行い、提案者・行政にとって魅力的な内容にしていく必要があります。

【平成 29 年度 主な実績】



(中断移転住宅（桑名駅西コラボハウス）完成式）



(情報交流施設（又木茶屋）)

・「コラボ・ラボ桑名」テーマ型提案の実現化

公民連携対話窓口「コラボ・ラボ桑名」で桑名駅西土地区画整理事業整備促進のため、「中断移転住宅」建設の募集をしました。民間提案により、約 3,300 万円の歳出削減の効果、また中断移転住宅の工期を短縮できました。

・サウンディング型市場調査

情報交流施設（又木茶屋）の既存建物及び敷地の有効活用について、市場性を把握できたことで、公募型プロポーザルによる提案を募集し、その結果、委託予定事業者が決定しました。今後は、市は当該施設の維持管理を負担せずに施設を使用貸借し、委託事業者に管理運営をしていただくことになりました。

2 課題

「コラボ・ラボ桑名」で民間の提案をただ待っているだけでは、良い提案が出てくるものではありません。

可能な限り行政側の情報を開示し、サウンディング調査等で行政側の意向を伝える場を設けることも必要です。

また、提案をいただいているものの、対話や調査に時間がかかり、なかなか実現に結びつかないことが多々あります。行政の意向を十分に調整し、民間のスピードに対応できるように速やかに実施していくことが重要です。

3 今後の方針

「コラボ・ラボ桑名」での民間との対話を通じて、行政側も従来の方法に固執せず新しい手法を考え、本市の様々な課題の解決に結びつけることが必要です。

一部の所管課だけでなく、全庁的に公民連携の発想が行きわたるように、今年度も職員向けの研修を実施する予定です。

今後、施設の老朽化等で財政状況が圧迫される中、大きな課題が出てくることが予想されます。先進地の取り組みも参考にしながら、歳出削減、歳入確保、市民サービス向上に向けて公民連携の可能性を探っていく必要があります。

Ⅱ. 桑名市男女共同参画基本計画について

1 現状

男女共同参画社会の実現に向けては、市民と行政が一体となって、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進していくことが重要です。

市では、国の基本法の理念を踏まえ、男女共同参画に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成20年に「男女共同参画基本計画」を策定し、男女共同参画社会の実現に向け、様々な取組を進めてまいりました。

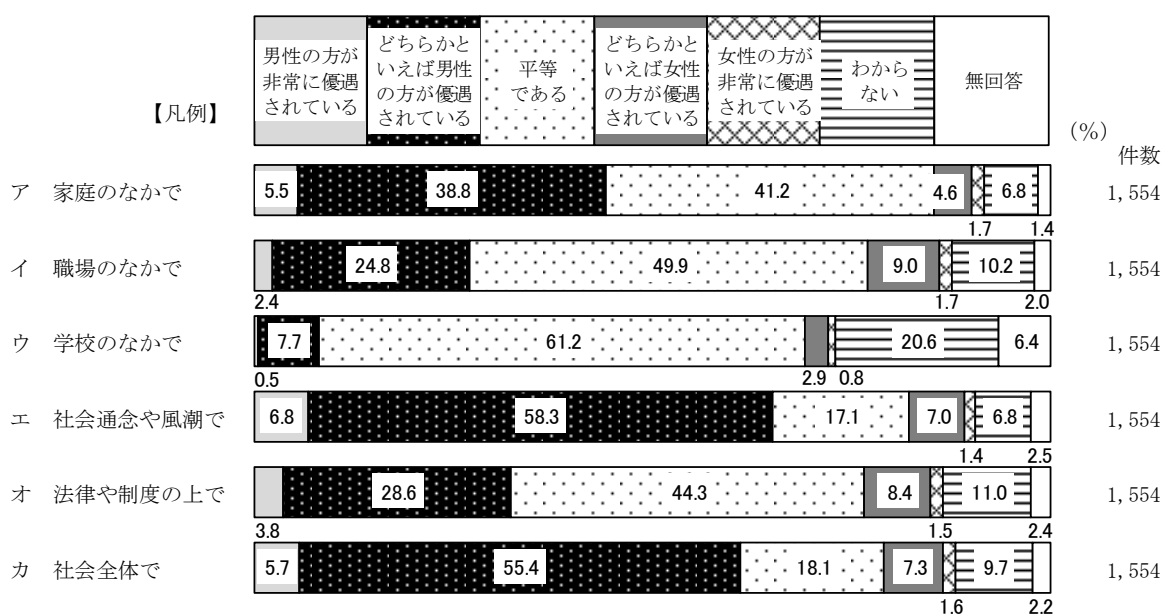
その現行の計画である「男女共同参画基本計画」が平成30年度をもって終了いたしますことから、今年度、これまでの取組を検証し、課題や今後の取組方向を明らかにするため、新しい計画を策定いたします。

計画を策定するために、平成29年8月にアンケート調査を実施しました。

2 アンケート結果・傾向

・社会全体で「男性優位」という評価が多い

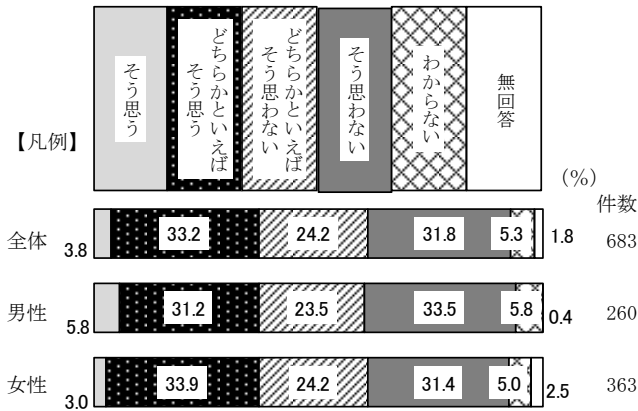
家庭、職場、学校など、いくつかの社会の側面における男女平等の実態をどうとらえているかを聞いた結果、「学校」についてのみ“平等”という声が多かった。「社会全体」、「社会通念や風潮」については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という意見が半数を超えている。



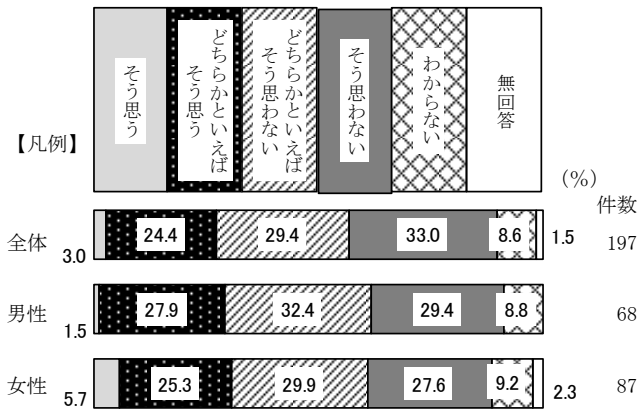
・「男は仕事・女は家庭」については賛否両論

一般調査では、「男は仕事・女は家庭」という考え方について、「どちらかといえばそう思う」と「そうは思わない」人の割合が近い数値となっている。つまり、賛成する人も反対する人も同じくらいいるのが現状である。この点は、就労者調査や市職員調査では異なり、「そうは思わない」人の割合が高い。

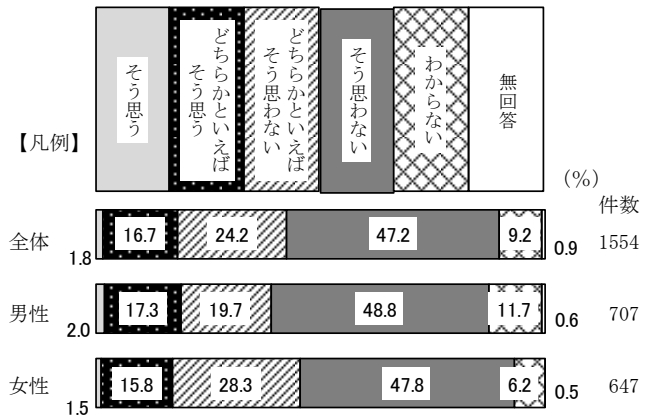
【一般調査】



【就業者調査】



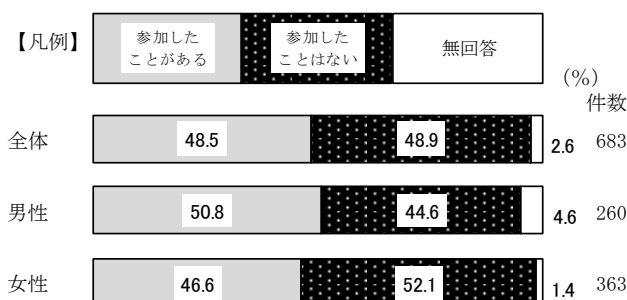
【市職員調査】



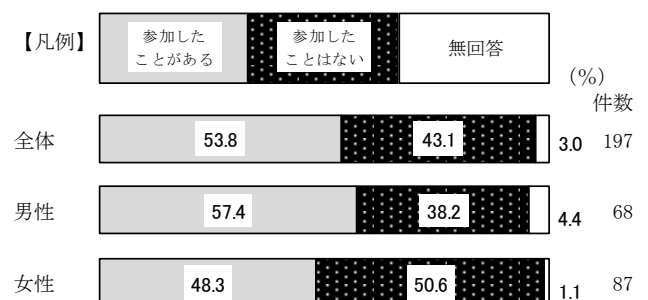
・「地域活動」に参加したことがない人が約半数

地域活動に参加したことがない人は、一般調査、就業者調査ともに半数弱みられる。

【一般調査】



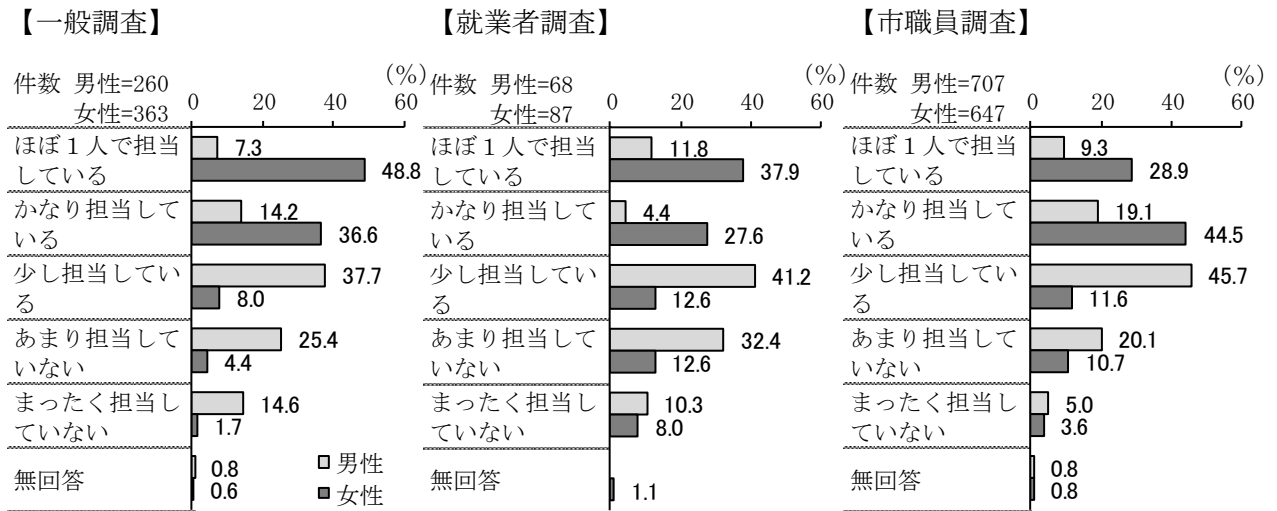
【就業者調査】



・女性の「家事時間」が、より長い

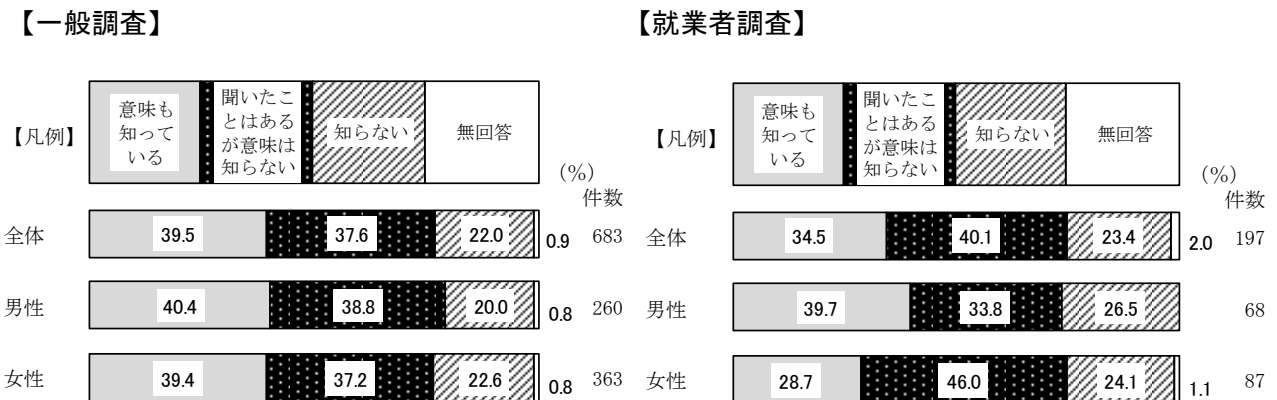
家事を担当する傾向として、女性は「ほぼ1人で担当」する人が多く、男性は「少し担当する」人が多い。時間にして、男性の場合はおよそ1～2時間、女性の場合はおよそ3～5時間程度であると考えられる。(一般調査では、女性の家事時間は5時間以上が最も多い)

働き方や職種等によっても家事への関わり方に差が出ることが予想されるが、いずれにしても男性よりも女性の家事担当が多いという傾向ははっきりしている。



・「男女共同参画」という言葉の周知

「男女共同参画」という言葉を「知らない」人が、一般調査、就業者調査ともに2割強みられる。性・年齢別でみると、男女ともに30歳代に「知らない」人が多いことがわかる。世代的な特性がある可能性があるため、ピンポイントでの啓発等を検討する必要がある。



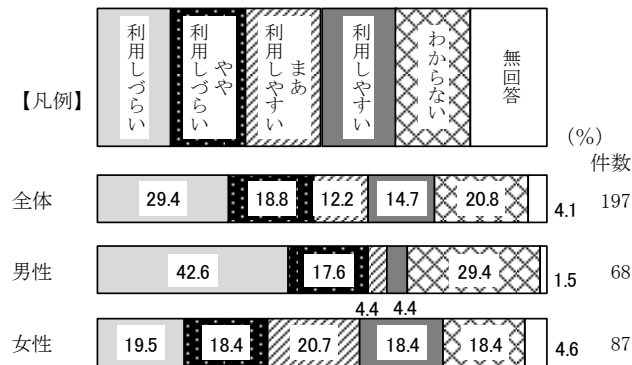
・育児休暇・介護休暇などは「利用したくても現実的には難しい」

育児休暇や介護休暇などの制度があっても、「現実的には利用は難しい」と考えている人が、特に男性に多くみられる。

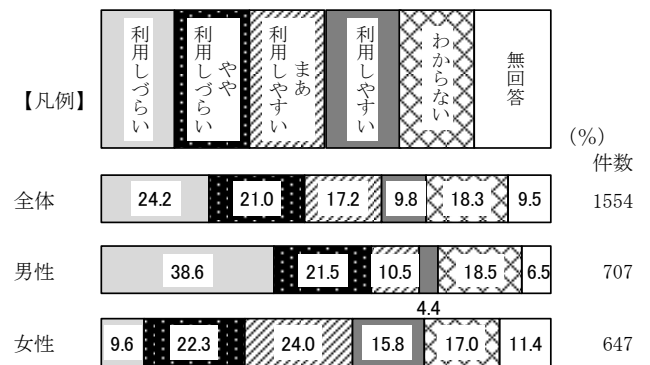
制度はあるが利用できないという状態では、働き方の改善にはつながらない。多くが、民間企業の現場における課題ではあるが、今日の社会的な課題として捉えていく必要がある。

■育児休業制度

【就業者調査】

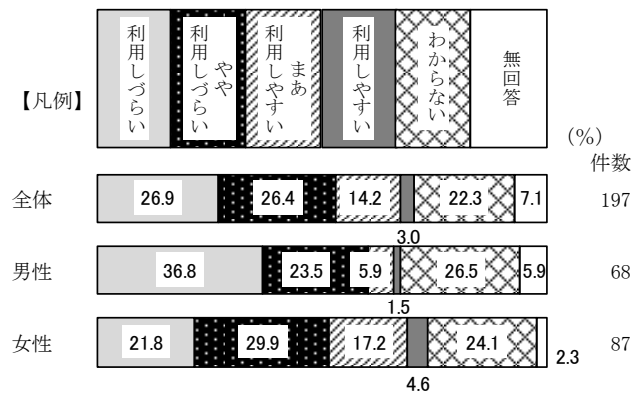


【市職員調査】

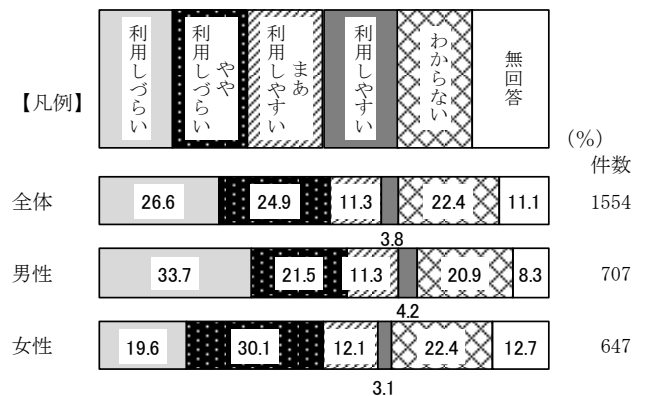


■介護休業制度

【就業者調査】



【市職員調査】



3

今後の取り組みとスケジュール

上記のアンケート結果や国の第4次男女共同参画基本計画、女性活躍推進法に基づく推進計画、DV防止法に基づく推進計画を元に新計画を11月までに策定いたします。

＜平成30年度＞

プロセス	4月	5月	6月	7月	8月	9月
現状の把握（市の取組）	←→					
〃（他市事例等）	←→					
基本方針等の検討	←→					
計画素案作成	←→					
具体的施策の検討		←→				
計画案作成・調整				←→	←→	←→
市民意見募集						←→
審議会・庁内検討会議		①※		②	③	

プロセス	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計画案作成・調整	←→					
計画原案		←→				
計画書・概要版作成				←→		
実施計画案作成・調整			←→	←→	←→	←→
審議会・庁内検討会議	④					

※詳細

5月15日（火） 第1回男女共同参画推進本部会議

5月22日（火） 第1回男女共同参画審議会

Ⅲ. 水辺空間を活用した社会実験について

1 現状

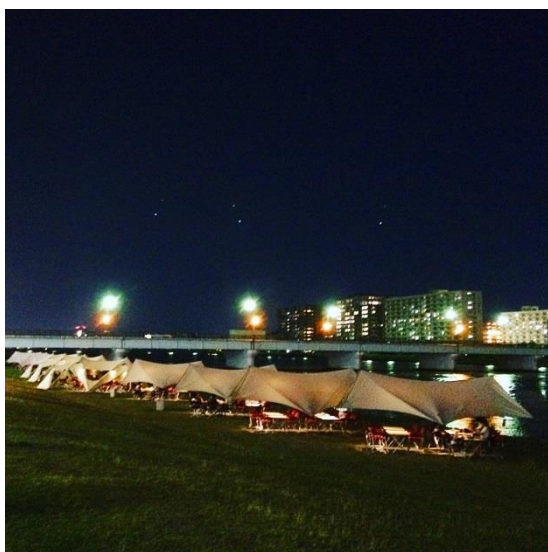
■本市の現状

- ・本市には、「本物力こそ、桑名力。」というキャッチフレーズがあり、眠っている地域資源を掘り起こし、磨き上げ、大きくすることで「本物」になりうるものが数多くあります。
- ・木曾三川に面する桑名は古くから交通の要衝として知られており、東海道唯一の海路の渡し場「七里の渡し」を有する宿場町として水辺を中心に賑わいが溢れていました。
- ・桑名城は揖斐川を利用した水城で、河川との連絡や運搬にも利用された「お堀」が今も残っています。
- ・桑名の水辺エリアには、桑名城跡・七里の渡し跡に加え、六華苑や諸戸氏庭園といった桑名を象徴する「本物」が残されている「歴史エリア」でもあります。
- ・さらに江戸時代から続きユネスコ無形文化遺産にも登録されている「桑名石取祭」、昭和初期から続く水郷花火大会が行われるなど、桑名市民のこころの拠り所として水辺エリアは機能しています。

■注目される水辺空間の可能性

日本はかつて、水辺を中心にまちの賑わいを形成していました。しかし、伊勢湾台風などの大規模な災害などの影響から水辺空間を利用する際の規制が厳しくなり、水辺の賑わいは見られなくなりました。

そのような中、近年ではまちの賑わいを創出する可能性として水辺空間の価値が見直され、規制緩和が行われたことにより、民間活力を取り入れた活用が促進されています。



参考事例（新潟県信濃川）

2

課題

- (1) 桑名の水辺エリアには魅力ある歴史的・文化的資源が多くあるが、それらをつないだ一体的な場所としての広がりとして見せられていない。点と点が結ばれ、線そして面的な広がりにしていく必要がある。
- (2) 面的な広がりにもっていくためのイベントも少なく、魅力ある水辺空間という利点を生していく取り組みが必要である。
- (3) 国営公園や堤防敷きは国土交通省の管轄であり、六華苑や住吉浦休憩施設は市の管轄、諸戸氏庭園は公益財団法人諸戸財団の所有、住吉神社は民間の管理であり、それぞれ所管が異なっている。こうした所管が違うことが、一体的な場所としての広がりの実現に少なからず影響を与えており、関係機関・団体が連携して賑わいを創出していく必要がある。

3

今後の方針

「本物」の水辺と歴史を、歩いて楽しむまち

河川を管理する規制が緩和され、水辺空間の新しい活用の可能性が高まっている状況に着目し、歴史資源や文化資源が集積し、木曾三川が臨める景観を有する住吉地区を拠点にしていく。桑名の「本物」であるまちの歴史、そしてこれからの「本物」として整備されるコンテンツなど水辺を起点としてネットワークを再編成し、周辺の景観も取り入れた、歩いて楽しめる「本物」のまちをつくっていきたいと考えています。

- (1) 景観・歴史・文化等を有する住吉地区の魅力を活かし、水辺空間等を積極的に観光や地域活性化につなげていく。
- (2) 居心地の良い、憩い・賑わい・活気のある空間を創出するための新たな取り組みとして社会実験を行い、その有用性の有無を確認する。国土交通省が行うイベントと連動して行い、より多くの集客を狙っていく。
- (3) 将来を見据えて地元事業者などとともにイベントを設計していくなど、関係者が連携した民間主導による協議会の設立によって、水辺空間を活用した継続的な賑わいを創出していく。

■平成30年度社会実験の概要

七里の渡し跡の歴史的な意味合いや、過去にどのように使われていたのかなど、住吉地区だからこそそのストーリーを大切に、縁日の屋台とは違う見せ方、魅力的で統一感のあるイベントを計画している。

○実験期間：平成30年9月下旬～10月中旬（うち2～3日間）

○実験場所：【エリアA】六華苑第二駐車場周辺・住吉休憩施設・揖斐川右岸堤防

⇒桑名市主催

【エリアB】国営七里の渡し公園

⇒国土交通省木曾川下流河川事務所主催

【エリアA】昼夜で楽しめる食と灯りのイベント

ターゲット層を絞り込んだカフェやバルの誘致

インスタ映えするデザインを狙う

【エリアB】集まって賑わうマルシェ会場

マルシェ・夜市などの開催（飲食物や物販の販売等）

昼と夜の時間帯に分けて実施

ほんぱくに関連したインフォメーションの設置

